

北から南から

落語の世界に魅せられて

岡野 鏡 芸能文化科 19 期生

芸能文化科 19 期生の岡野 鏡と申します。私は芸文を卒業してから大学に進学しましたが、芸文で出会った落語が忘れられず、大学を中退して落語のお囃子の師匠に入門いたしました。

落語のお囃子とは、落語家さんが舞台上に登場するときに鳴る出囃子を演奏したり、上方落語特有の"ハメモノ"という落語の中に効果音や BGM として入る音楽を演奏したりするお仕事です。

約 2 年の修行期間を終えて、今は南森町にあります「天満天神繁昌亭」をはじめ色々な場所で開催される落語会で三味線を弾かせていただいております。

修行期間は大変でしたが、師匠からは芸だけではなく生きていく上で大切なことをたくさん教えていただきました。

入門して 7 年経ちました今は、三味線を弾くだけでなく自分で落語会を企画したりもしています。

見たこともなかった落語の世界に出会わせてくれた芸文、落語の魅力を教えてくださった講師の林家染左師匠には感謝してもしきれません。

敷居が高いと思われがちな落語ですが全くそんなことはないの、卒業生にこんな仕事をしている人がいるんだと知っていただきぜひ気軽に落語会へ足を運んでいただけますと嬉しく思います。



三味線を調弦する岡野さん



2 人が学んだ芸文棟

意を決して芸能文化科に入学して

辻 凧子 芸能文化科 19 期生



無声映画と活弁活動の公演にて

高校を卒業してから 7 年が経ちました。女優になりたいくて、特に喜劇女優になりたいくて、でも自分に自信がなかった中学時代、意を決して芸能文化科に入学しました。

そこでお芝居を始めた私は、見違える様に日々の行動が変わり、自分の見る世界が変わりました。それから大学で映画を学ぶ為、京都芸術大学映画学科に進学し、仲間と出会い、演じるだけでなく、映画を作る面白さを知り、在学中から監督として映画を制作して、卒業して上京してからも年に一本オリジナルで自分の描きたい世界を映画にして作っています。

役者としては、映画に出演したり、朝の連続テレビ小説「おちょやん」「わろてんか」等に出演したり、舞台では間寛平さんの劇団に所属し、芸人さん方と舞台に立ったり、一つずつ一つずつ、好きな人達と作品を作ることの幸せを噛み締めながら過ごしています。

監督としては現在、大学時代に会った活弁に興味を持ち、活弁ありきの無声映画を制作しております。なんとその映画に、私が高校一年生の時にパントマイムを芸文の授業で教えてくださった、いいむろなおきさん出演して頂きました。時が経ち、こうして再会することができて、すごく嬉しかったです。

私にとって、あの時芸能文化科に入学していなければ今の自分は居ないと思っています。役者として生きる中で、演劇や落語やお三味線、日舞、お琴、パントマイム、あの時学んだ芸事や、あの時生まれた好奇心が今の自分を作っています。

芸文で 3 年間一緒に過ごした同級生は、芸事を続けている子もいれば、就職して働いている子もいたり、お母さん

になってる子もいたり、皆が自分の生きる道を進んでいて尊敬します。

私も自分の夢を叶える為にこれからもお芝居をつづけてまいります。ユーモアを大切に生きていきます。